

大人用



伝道地便り

2023年 第4期 西中央アフリカ支部

第1話「平和への戦い」	カメルーン
第2話「目の見えない人々に希望を」	カメルーン
第3話「恐ろしい見えない手」	ギニア
第4話「真理に忠実に」	ガーナ
第5話「影響力のある教会」	ガーナ
第6話「草刈り鎌襲撃事件」	ガーナ

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか挙げていきます。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. 平和への戦い

カメルーン



サロメ

サロメの名前は平和という意味です。しかし、西アフリカの国カメルーンでの彼女の生活は平和とは程遠いものでした。彼女は悪霊に取りつかれて苦しんでいたからです。

サロメはカメルーンの首都ヤウンデにあるセブンスデー・アドベンチストの高等学校で学んでいましたが、先生にある相談を持ちかけた時からすべてが始まりました。彼女は高校を卒業して大学に入るために夕方のクラスをとっていました。彼女はクラスの中で大変優秀な生徒でしたが大学の入学試験に失敗し続けていました。もう4回も落ちていたのです。そこで、彼女はあるアドベンチストの先生に助けを求めることにしました。

「あなたのためにお祈りしましょう」

と先生は言いました。

サロメは嬉しくなりました。でも先生は続けて次のように言いました、

「1つ条件があります。君は自分の生き方を神様の御心に調和させるようにしなければなりません」

サロメは賛成しました。しかし、彼女はアドベンチストではなく、自分の人生で何かを変える必要を感じていませんでした。自分は神様の御心と調和して生きているとサロメは思っていました。

それからしばらくして、彼女は先生と祈るために彼のオフィスを訪れました。先生が祈り始めると、彼女は叫び声を上げました。叫びながら奇怪な言葉が次々と彼女の口から飛び出しました。先生は祈り続けました。するとサロメは侮辱的な言葉を先生と神様に向かって投げつ

けました。先生はそれでも祈り続けました。サロメがおとなしくなった時、彼女は先生から自分の先程の様子を聞き、ショックを受けました。何が起こったか全く覚えていませんでした。彼女は悪霊に取り憑かれていたのです。

「君には祈りの生活が必要だよ」

と先生は言いました。

「がっかりすることはない。神様の御心に従ってすべてはうまくいくよ」

それ以降、悪霊は先生が祈るたびに毎回出現するようになりました。サロメは叫び声をあげて神を侮辱しました。そしてまるで自分自身を窒息させるかのように自分の首をぐいとつかむのです。時々、腐敗した死体のような臭いが部屋に充満しました。先生は毎回、サロメが平常の状態に戻るまで祈り続けました。

彼女がおとなしくなると、先生は神様について話しました。サロメは自分の生活が聖書に調和していないことに気づき始めました。彼女は第7日目安息日について知りました。正直であるべきことを学びました。ボーイフレンドとの同棲はいけないことであると気づきました。彼女は自分の生活を変え始めました。彼女はボーイフレンドと別れて安息日に教会に行くようになりました。

すると今度は自宅で悪霊による発作が起きたのです。サロメはひどい頭痛がしたので、アドベンチストの友人に助けを求めて電話しました。友人がサロメの様子を確かめようと後から電話をかけ直した時、サロメの応答はありませんでした。友人は様子を見にサロメの家までやってきました。彼女が家に足を踏み入ると腐敗した死体のような臭いがしました。友人は直ちに祈り始めました。彼女はサロメにとって必要なものは病院でも薬でもないことを知っていました。彼女にはイエス様が必要だったのです。サロメは話すことも動くこともできませんでした。彼女の体は麻痺していたのです。友人はサロメが平常の状態にもどるまで3時間近く祈り続けました。

別の発作が起きたのはアドベンチスト教会においてでした。聖餐式でパンが配られている最中、サロメは自分の首を自分の片手でつかんだ状態で床に倒れました。そ

れを見てある人々は恐怖で逃げ出し、別の者たちは祈り、さらに他の者たちは讃美歌を歌い始めました。サロメは片方の自由な手で聖餐式のぶどう汁の入った盃をとり、それを床に投げつけました。彼女は自分自身を傷つけるために盃を壊そうとしたのです。執事たちはサロメを会堂から運び出しました。

自分の生活を神の御心に調和させようというサロメの決意は、発作の度毎に強まっていきました。彼女は聖書の学びを終え、バプテスマを受けてイエス様に心をささげる決心をしました。

悪霊は最後の攻撃をしかけました。サロメが教会でバプテスマ槽の所までやって来ると、彼女は地面に倒れました。見えない力が彼女をバプテスマ槽に入らせまいと働いているようでした。水の中にいた牧師はそのたたかいの様子を見て、彼女を助けようと両手を差し出しました。しかし、悪霊の支配下に置かれたサロメは牧師の手を取ることを拒否しました。牧師はそれでもかまわずに彼女を水の中へと引き入れました。牧師がサロメを水の中に押し込むと彼女は猛烈な勢いで抵抗しました。牧師はバプテスマに反対しているのは悪霊であって、サロメではないことが分かっていました。

サロメが水の中から上がってくると、悪霊は離れ去りました。彼女は喜びに満たされ、にっこりとほほ笑みました。

その後、彼女は二度と悪霊に取りつかれることはありませんでした。でも5回目の大学受験に備えている時、サロメは悪霊が自分をあざける声を聞きました。その声は、彼女は決して成功せず、彼女の人生は失敗だと言いました。しかしサロメは試験に合格しました。

今日、サロメは31歳で平和に暮らしています。教会では女性執事を務め、彼女がかつて学んだアドベンチスト高等学校で教えています。彼女は大学の入学試験に4回失敗したことについて神様に賛美しています。

「神様は受験の失敗という経験を通して、祈るために私をあの手で先生の所に導いてくださいました。そして私の人生における悪霊の存在に気づかせてくださり、それを追い出せるようにしてくださいました」

と彼女は言っています。

今期の13回献金の一部は、子どもたちがイエス様についてフランス語と英語で学ぶことのできるバイリンガル学校をカメルーンに開設するために用いられます。こ

れはカメルーンにおけるセブンスデー・アドベンチスト教育を拡張する助けとなることでしょう。

〈お話のヒント〉

- ・今週(2課)の大人の『聖書研究ガイド』の学びは、マタイ28章18~20節にあるキリストの大宣教命令の最重要焦点は弟子づくりであることを強調しています(10月9日、月曜日の学び参照)。安息日学校クラスの中で、サロメの先生がどのようにして弟子づくりを実践したのか話し合ひましょう。その答えの例として次のようなものがあげられるでしょう。

サロメと祈ったこと。彼女が神の御心に従って生きるよう励ましたこと。彼女に聖書の真理を伝えたこと。学びに出てきた次の間について話し合ひましょう。

神様のこのご命令はあなたの生き方や人々への奉仕にどのように影響を与えているのでしょうか？

- ・Facebookの写真をダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq
- ・西中央アフリカ支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。bit.ly/wad-2023

- ・このお話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。

「牧師のみならず、全世代の教会員1人ひとりが世界伝道という考えを持ち、その使命のために献身する生き方を、キリストの証人となり弟子を作るという喜びにより実践すること」(「伝道の目標」No.1)

「10/40 ウィンドウの中にある、伝道が及んでいない、あるいは伝道が十分ではない地域に住む人々とキリスト教以外の宗教に対するアドベンチストの働きを強化し、多様化させる」(「伝道の目標」No.2)

「大都市におけるアドベンチストアウトリーチを強化し多様化する」(「霊的成長の目標」No.5)

「聖霊に満たされた生活を送れるように個人や家族を訓練する」(「霊的成長の目標」No.5)

詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご参照ください。

宣教メモ

- ・1929年4月、カメルーンで初めて、セブンスデー・アドベンチストの信仰に改宗して6人の先住民がバプテスマを受けました。彼らはンディ・ダニエル、メジョ・エングダンテ・ジョスエ、アントワーン・ムフーミと彼らの3人の妻でした。

2. 目の見えない人々に希望を

カメルーン



コスマス

信徒伝道師のコスマスは、西アフリカの国カメルーンの最大都市ドゥアラで伝道集会を開く準備をしていたときに、目の見えない男性との予期せぬ出会いが与えられました。

その男性はコスマスに言いました、

「もし、人生で計画を持つのなら、目の見えない人たちと一緒にいるべきですよ」

この言葉はコスマスの心に残りました。

その夜、彼は目の見えないある男の人と話している夢を見ました。

翌朝、彼はあの夢が前日に会った男性と関係があるのだろうかと思いました。

その日、伝道集会の準備を続ける間、他にもう 10 人の目の見えない人々と出会いました。その晩、彼は目の見えない人たちでいっぱいのサッカースタジアムにいる夢を見ました。目が覚めた時、彼は、もしかしたら神様が自分を視覚障害者の働きに召しておられるのかもしれない、と感じました。

これは 2014 年のことでした。今日、コスマスは 350 人からなる視覚障害者のグループを監督しています。彼は彼らのために説教をします。彼らに聖書を教えます。彼らの社会的そして教育的な必要が満たされるように支援します。そのうちの何人かがバプテスマを受けるに至りました。ここに 2 つのお話をご紹介します。

アポリネア

アポリネアはフランスの自動車メーカーで 20 年近く働いた整備士です。1990 年に目の問題に悩み始めると、徐々に視力は落ちていき、とうとう 2004 年には両目の視力と仕事を失ってしまいました。

自宅で座りながら、彼はラジオを聞くことに長い時間を費やしました。ある土曜日の夕方、彼はセブンスデー・アドベンチストの放送番組『It Is Written』を耳にしました。そこでは視覚障害者向けの 1 時間のプログラムが持たれ、コスマスが話をしていました。コスマスはリスナーたちを安息日の朝、教会に集うよう招きました。

月曜日にアポリネアはコスマスに会おうとラジオ放送局に行きました。そこにいた 1 人の技術者が、コスマスは平日、病院で働いていると教えてくれました。アポリネアがその病院に行くとコスマスはいました。2 人は安息日に教会で会うことにしました。それ以来、アポリネアは毎週安息日ごとに教会に通うようになりました。

しばらくして、彼はバプテスマを受けてアドベンチスト教会の教会員になりました。

今日、58 歳の彼は神を愛する人々と目の見えない人々と共に礼拝できることを喜んで、次のように言っています。

「私は目の見えない人のことを気にかけてくれる人々がいることを知って驚きました。私たちは社会から拒絶されているからです。」

フローラ

フローラは 32 歳の時、頭痛がするようになりました。彼女はそれまで一度も目に問題はありませんでした。なんと 3 ヶ月の間に完全に目が見えなくなっていました。



フローラは社会から拒絶されたように感じました。自宅で孤立していた時、彼女はラジオを、特に『It Is Written』という放送番組を聴くようになりました。彼女はコスマスが主導するプログラムにひきつけられました。

フローラはこれまでイエス様のことを、問題にぶつかったときに、助けを求めることのできる人間の祭司のような存在として認識してきました。しかし、『It Is written』を聴くうちに、人生を変えることのできるイエス様について学びました。彼女はアドベンチスト教会が目が見えない人々を大切にすることを聞き、安息日に教会に行きました。

数ヶ月のうちに、彼女に再び笑顔が戻り、喜びを感じるようになりました。彼女のうちに、自分の喜びを他の人々と分かち合いたいという望みが芽生え、大きくなっていきました。彼女もまたバプテスマを受けてアドベンチスト教会に加わりました。

それから、フローラは自分と結婚したいという教会員に出会いました。彼の家族は結婚に反対でした。しかし、彼は家族にこう尋ねました、

「もし、ぼくの目が見えなくても、あなたはぼくが結婚することを望むのではないのでしょうか？」

そのとおりだと言う家族に彼は言いました、

「では、フローラと結婚させてください」

そして2人は2022年に結婚したのです。

今日、40歳のフローラは目が見えない人々にコンピューターを教えています。しかし彼女にとっての最高の喜びは、イエス様が私たちを愛していること、そしてすべての人を受け入れてくださることを人々に伝えることです。

「私は目が見えない人間ですが、喜びに満ちた生活を送っています」と彼女は言っています。

「この世界の中に私の場所があり、私にとって足りないものは何一つありません」

今期の13回献金の一部は1963年にカメルーンでIt Is Written（放送番組）を創設したスイスの宣教師、エメ・コセンダイの働きの上に築くものとして当てられました。エメ・コセンダイはカメルーンにおける教会の働きの先駆者であり、50年以上にわたる彼の働きの中で何百もの教会学校を開設しました。

今期の13回献金はさらにもう1つ教会学校を建てるために用いられます。それは子どもたちがフランス語と英語でイエス様について学ぶことができるバイリンガルの学校です。西アフリカで伝道スピリットが燃え続けられるように皆様の惜しみない献金をよろしくお願いいたします。

〈お話のヒント〉

- ・コスマスは盲人のためのサポートグループを立ち上げた時、自分の地域における必要を見出しました。『聖書研究ガイド』の学び（3課）では私達の地域で特別な必要を持つ人々を見出し、彼らと接触できる機会が与えられるように祈ることが勧められています（10月19日、木曜日の学び参照）。コスマスの一例から私達がどのような学びと励ましを得ることができるか安息日学校のクラスで話し合ってみましょう。
- ・先駆けとなったスイス人宣教師エメ・コセンダイについて、セブンスデー・アドベンチストのオンライン百科事典（Encyclopedia of Seventh-day Adventists）でもっと読んでみましょう。
bit.ly/Cosendai-Bio
- ・Facebookの写真をダウンロードしましょう。
bit.ly/fb-mq
- ・西中央アフリカ支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。
bit.ly/wad-2023

- ・このお話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。「牧師のみならず、全世代の教会員1人ひとりが世界伝道という考えを持ち、その使命のために献身する生き方を、キリストの証人となり弟子を作るという喜びにより実践すること」（「伝道の目標」No.1）
「都市、10/40 ウィンドウ、未開拓地や宣教地におけるクリスチャンではない人々に対する伝道を強化、多様化する」（「伝道の目標」No.2）
“個人や家族を聖霊に満たされた生活を送れるようにする。（「霊的成長の目標」No.5）
詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご参照ください。

3. 恐ろしい見えない手

ギニア



テオファン

ある土曜日の朝のこと、西アフリカの国ギニアで高等学校に登校しようとしていたテオファンに恐ろしいことが起こりました。彼は何者かによってのどをいきなりつかまれたのです。

誰がつかんだのかテオファンには見えませんでした。ただ、窒息させられて息が出来なかったことだけは明らかでした。恐ろしさでいっぱいになり、彼は家から逃げ出して学校まで走って行きました。しばらくすると、いつものように呼吸ができるようになりました。

しかしこれはただの始まりにすぎませんでした。テオファンがまったく予期していないときに、その見えない手が喉をつかみ、息ができなくなるのです。そんなとき彼は空気を求めてあえぎながら逃げいき、息ができる場所を探すのでした。

テオファンの父親は彼を病院に連れて行きました。しかし、医者は何の異常を見つけることはできませんでした。

「君は正常だ」

と医者は言いました。

父親は彼を別の病院に連れて行きました。しかし

そこの医者も何の異常を見つけることはできませんでした。

「君はまったく異常なしだ」

と医師は言いました。

でもテオファンには何かがおかしいということが分かっていました。大丈夫ではないのです。息ができないのです！

父親はテオファンを精神科に連れていき、医師はかれに錠剤を処方しました。薬を飲むと気分は良くなりましたが、発作は依然として収まりませんでした。しばらくすると、錠剤を飲んでもまったく助けにならなくなりました。テオファンはどうすればよいか分かりませんでした。

そのような絶望的な時でした。ある声が彼に語りかけました。

「教会に行きなさい」

とその声は言いました。

テオファンにはわけがわかりませんでした。彼は幼い時から日曜日は毎週教会に通っていました。一年前から彼は教会に行くことを止めており、今もう一度戻る理由を見出すことが出来ませんでした。彼はその声を無視しました。

しかし発作は止まず、その声もしつこいのです。

「教会に行きなさい」

とその声は言いました。

テオファンはもしかして神様が自分に語っておられるのだろうかと思いました。彼は聖書を読み始めました。聖書を読んだ後はいつもと比べて良く眠れることに気づきました。彼はもう一度、日曜日ごとに家族と教会に行くことを決めました。

ちょうどその時、テオファンの叔父が訪ねてきました。

テオファンは叔父に息が苦しくなる発作のことを話しました。また、教会に行きなさいと彼に訴え続

ける声についても話しました。テオファンの叔父はセブンスデー・アドベンチストであり、ギニアでグローバルミッションパイオニアとして働いていました。グローバルミッションパイオニアというのは自分の国でまだ福音を知らない人たちにイエス様を伝える宣教師のことです。テオファンの叔父は通常、クリスチャンでない人々のために働いていましたが、今、自分の甥っ子が助けを必要としていることを知りました。

「祈るためにアドベンチストの教会に来なさい」と叔父さんは言いました。

「それが君にとって最善の解決策だよ」

その次の土曜日、テオファンは叔父と一緒に教会へ行き、丸1日そこで過ごしました。彼がサンセット後に帰宅したとき、今まで経験したことのない内なる平安に満たされていました。その晩、彼はここ何ヶ月もの間で一番ぐっすりと眠ることができました。

それからというもの、テオファンは安息日ごとにアドベンチストの教会に行き、日曜日と木曜日には祈祷会に通うようになりました。そこでは毎回、人々が彼のために祈ってくれました。彼らはイエス様に悪霊による発作を止めるために介入してくださいと祈りました。

時が経つにつれて発作の回数は徐々に減り、とうとう発作は出なくなりました。テオファンは教会の大切さを知りました。医師たちは彼を助けることが出来ませんでした。ただイエス様だけが彼を助けることがお出来になったのです。彼は自分の心をイエス様におさげし、セブンスデー・アドベンチスト教会に加わりました。

3年前の皆様からの13回献金によりギニアのコナクリにあるセブンスデー・アドベンチストの学校にいくつかの新しい教室をつくることが出来たことを感謝申し上げます。

〈お話のヒント〉

- ・テオファンの叔父はグローバルミッションパイオニアとしてギニアで神様を知らない人々にイエス

様の愛を伝えていました。しかし、クリスチャンである彼の甥が助けを必要とした時、彼の任務は変化したのです。今週の『聖書研究ガイド』の学び（5課）では、私達が伝道における我々の役割をどのように思っているのか、またもし私達の任務をただシンプルに“使者”という表現で表すとしたら私達の認識がどのように変わるかを問いかけています（10月30日、月曜日の部分参照）。使者という肩書は、このミッションストーリー中で叔父が果たした2つの役割に当てはまるかどうか安息日学校クラスで話し合ってみましょう。神様をもっとよく知り、伝道における私達の役割をもっとよく理解できるように安息日学校クラスで祈りましょう。

- ・ Facebook の写真をダウンロードしましょう。
bit.ly/fb-mq
- ・ 西中央アフリカ支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。
bit.ly/wad-2023
- ・ このミッションストーリーはセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。
「個人や家族を聖霊に満たされた生き方へと導く」（「霊的成長の目標」No.5）
「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）
「青年が神様を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）
詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご参照ください。

宣教メモ

- ・ ギニアの4つの主要地域すべてで、イスラム教徒が多数を占めています。キリスト教徒が多いのは首都コナクリ、その他の大都市、南部、東部森林地帯です。原住民の宗教的信仰は森林地帯で最も広く普及しています。

4. 真理に忠実に

ガーナ



オベデ

オベデの祖父は、孫のオベデが西アフリカの国ガーナにあるセブンスデー・アドベンチストの高等学校で学ぶことを提案しました。しかしオベデの継父はその考えに強く反対しました。

「もしそこに行かせれば、オベデはアドベンチストになって戻ってくるから、私はそこに行くことを許さない」

と、別のキリスト教宗派の牧師であるオベデの継父は言いました。

そこでオベデは公立の寄宿学校に入学しました。とはいえ、彼はそこでアドベンチストについて学ぶことになったのです。

寄宿学校にいる間、オベデは日曜日毎に教室の1つで他の生徒たちと一緒に礼拝しました。彼は1年また1年と忠実に礼拝を続けました。

いよいよ卒業間近になった時、オベデ達最終学年のクラスが1か月間最後の試験のために勉強する間、下級生たちはみな家に帰されました。キャンパスに残っている生徒はほんのわずかとなり、日曜日の礼拝プログラムはなくなってしまいました。

1週、2週、3週と日曜日が過ぎていき、オベデ

は日曜日の集会がないことを寂しく思っていました。

試験前の最後の週末のこと、オベデは3人のクラスメートたちが土曜日にキャンパスから出かけていくのを見ました。彼らはきれいに身支度を整え、これから教会に行くのだと言いました。

「ぼくも一緒に行ってもいい？」

とオベデは尋ねました。

オベデは2人の男の子と1人の女の子の後をついてセブンスデー・アドベンチスト教会にやってきました。彼らが礼拝中に特別讃美をするのを聴いてオベデはとても驚きました。彼はハーモニーで歌われる曲を初めて聴き、歌の歌詞に感動しました。それはセブンスデー・アドベンチスト教会讃美歌集 (Seventh-day Adventist Church Hymnal) 632 番の「Until Then」という曲でした。

その次の月曜日、彼はアドベンチストの女の子、サンドラに讃美歌集を貸してくれないかと頼みました。安息日に聴いたあの曲の歌詞を写したいと思ったからです。サンドラは彼に讃美歌の本を渡し、その曲の歌い方を教えてくれました。オベデは本の中の他の曲も教えてほしいとサンドラに頼み、2人は試験週の間、たくさんの讃美歌と一緒に歌いました。

それらの讃美歌によって、セブンスデー・アドベンチスト教会に対するオベデの興味は引き起こされ、彼は教会についてもっと知りたくなりました。

しかし、継父はなんと言うのでしょうか？ 継父が自分をアドベンチストの学校に行かせたくなかったこと、そして息子がアドベンチストになるのを恐れていたことをオベデは覚えていました。

高等学校を卒業すると、オベデは夏を過ごすために家に戻りました。彼は夏休みの間、母親と一緒に揚げた魚やトウモロコシ粥（バンク）を道端で売って過ごしました。安息日に教会に行くことは絶対に出来ないことでしたが、彼はアドベンチスト教会の礼拝に行きたくてたまりませんでした。彼は地元の

アドベンチスト教会が水曜日の夜7時から8時まで祈祷会を行っていることを知りました。そこで1つの計画を思いつきました。彼は水曜日の夕方、トイレに行くと言って1時間だけお母さんとの仕事から離れました。家のトイレは歩いて行くのに遠すぎましたが、公衆トイレは彼らが食べ物を売っている所からあまり離れていませんでした。その公衆トイレはアドベンチスト教会の近くにあったのです。

2ヶ月間、オベデはアドベンチスト教会で水曜日の夜に礼拝しました。そこで新しい讃美歌を覚えしました。また、聖書の中から神様についての新たな真理を学びました。彼は真理を見つけたことを確信しました。

秋、大学に入学したオベデはすぐにアドベンチストの学生を探しました。彼らを見つけると、安息日の礼拝に毎週一緒に参加しました。まもなく彼はバプテスマを受けました。

オベデがアドベンチスト教会に加わったことを知った祖父はとても喜びましたが、継父は心穏やかではありませんでした。しかし、時が過ぎるとともに、オベデの決断を受け入れてくれるようになりました。

今日、オベデはガーナのアクラにある南ガーナ教団の本部で事務補助の働きをしています。彼は、たとえ親やその他の人の反対があろうとも、真理に従うことが大切だと言います。

「真理を見つけて、それが真だと確信したならあなたは何ものによってもそこから引き離されてはなりません。あなたは自分が真理だと確信するものに従うべきで、最もよい時に神はあなたが教会で礼拝できるようにしてくださるでしょう」

とオベデは言っています。

今期の13回安息日献金の一部はガーナのセブンスデー・アドベンチスト教育を広げる助けとなります。その基金は、2015年に22名の学生で始まり、現在770名をかかえるまでになった看護師助産師養成大学の新しい教室や寮の建設に用いられます。アドベンチストでない学生が全体の7割を占めるこの学校は、真に伝道を担う働きをしています。

12月30日におささげくださる皆様の13回安息日献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・『聖書研究ガイド』8課にはルカ5：17～26における友人たちの忠実さがどのように絶望的な中風患者を助けたかが書かれています。アドベンチストの友人たちの忠実さはどのようにしてオベデを助けたのでしょうか？

解答例：ただ安息日に教会に行くことで友人たちはオベデをもっと深い信仰へと導いた。信仰は信仰を生む。友人たちの信仰がオベデの信仰となり、彼は学んだ真理に忠実だった。安息日学校クラスで、わたしたちがどのように友人たちの助けになることができるか話し合いました。

- ・Facebookの写真をダウンロードしましょう。
bit.ly/fb-m
- ・西中央アフリカ支部の「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。
bit.ly/wad-2023

- ・このお話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を体現するように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご参照ください。

宣教メモ

- ・クリスチャン・アブラハム・アッカ（1883～1912年）は、ガーナのセブンスデー・アドベンチスト教会の創立メンバーでした。彼は、文書伝道の働きに加え、ガーナで最初の2つの教会と最初の2つの学校を設立し、ガーナ人として初めて教会の長老に任命され、29歳で早すぎる死を迎えるまで、同国の教団の執行委員を務めました。

5. 影響力のある教会

ガーナ



ピーター・N・K・ドゥオドゥ
& サムエル・マーフォン

13 回献金のプロジェクトが、他の大きなプロジェクトを生むことはめずらしいことかもしれません。しかし、西アフリカの国ガーナの首都、アクラでまさにその様なことが起こりました。

15 年ほど前、ガーナ軍は、セブンスデー・アドベンチスト教会にアクラにある主要兵舎の一區画を提供しました。その土地は無償でした。その土地を提供するにあたって示された唯一の要求は、アドベンチスト教会がそこに礼拝堂を建設することでした。軍は兵士たちが礼拝に集えるようアドベンチストの教会を建設してほしいと依頼したのです。

ガーナ全土の教会員がこのプロジェクトのために寄付しました。兵士たちがアドベンチストの教会で礼拝できるようになってほしかったからです。世界中の教会もこれに参加しました。2007 年第 3 期の 13 回献金はその会堂の仕上げのために用いられ、教会のドーム天井の周囲に取り付けられた美しいステンドグラスの窓、説教壇後方の祈りの手、そしてアド

ベンチスト教会のロゴが描かれたステンドグラスパネルが設置されました。

2008 年 11 月 1 日、兵舎の中につくられた教会の献堂式が執り行われました。正面玄関の外に掛かっている額にはオープニングセレモニーに出席した代表者たちのリストが記されています。そこには、軍で働く人々に奉仕する世界中のチャプレンを監督する、世界総会のアドベンチスト牧師会長も含まれています。

ガーナ国家警察は、軍の兵舎の一画に新しく設立されたアドベンチスト教会に注目しました。彼らも自分たちの国立訓練学校の構内にアドベンチストの教会を設立したいと考えました。彼らは教会の指導者たちに次のような提案をしました。

「もし警察学校の土地を一區画提供したら教会を建ててくれますか？」と。

それは教会リーダーたちにとって断ることの出来ない提案でした。警察学校にアドベンチスト教会を建てるための資金集めが始まりました。

南ガーナ教団で総務局長を務める地元教会の指導者クリストファー・アナン・ヌノーは次のように言います。

「彼らは軍の兵舎で私たちが成し遂げた働きを見て、私たちに教会の建設を任せることにしたのです」

伝道する建物

アドベンチスト教会の軍付きチャプレン兼陸軍中佐であるピーター・N・K・ドゥオドゥ氏はこう言っています。

「兵舎にある教会は軍隊にとって光であることが証明されました。この建物があるゆえに人々はここに来て礼拝したいと思うのです。彼らは、この建物はすばらしい、と言います。ですから、私たちが伝道に出ていなくても、この建物が私たちに代わって伝道しているのです」

教会で礼拝する軍職員はアドベンチストへの理解が深まり、さらに最も重要である神と救いについて学ぶのだと彼は言います。

「軍職員に福音を伝えるべく神がセブンスデー・アドベンチスト教会に与えてくださったこのすばらしい媒体を神に感謝します。これは大きな意味があります」とドウオドゥ氏は語ってくれました。

勤続 17 年のベテラン警察官であり、なおかつガーナ警察で唯一のアドベンチストのチャプレンでもあるサムエル・マーフォンは、将来の警察学校教会が警察職員に兵舎の教会と同様の影響力をもたらすことを期待しています。その教会では 1500～2000 人もの人々が礼拝することを想定しています。

「神様は、わたしたちのためにそれを成してくださいでしょう。神様がその教会を建ててくださいます」とマーフォン氏は言っています。ガーナを含む西中央アフリカ支部のアドベンチスト伝道部長ジョシュア・ナルンガ氏は、軍兵舎における 2007 年の 13 回献金のプロジェクトが警察にもたらしている影響力にワクワクさせられたと言います。

「とても励まされることです。アドベンチスト教会がガーナ軍隊の中に存在しています。教会に接触する人々にとって、願わくは主がそこを永遠へと至る感化センターとしてくださるように、それが私の祈りです」とナルンガ氏は語っています。

ガーナの軍や警察エリートたちに大きな影響力をもたらしている 2007 年 13 回献金のお礼を申し上げます。今期の 13 回献金もガーナの人々に大きなインパクトを与えることを約束するものです。それはセブンスデー・アドベンチスト看護師・助産師養成大学に新しい教室や寮をつくるために用いられます。12 月 30 日におささげくださいます 13 回献金を感じたいします。

〈お話のヒント〉

- ・『聖書研究ガイド』の今週の学び（9 課）は権力ある人々に対して証をすることの大切さについて語っています。軍の兵営にあるアドベンチスト教会はどのようにして権力者たちに証となったのかを学びの中で話し合ひましょう。アドベンチストが影響力ある人々に働きかけるには他にどのような方法があるでしょう？
- ・ Facebook の写真をダウンロードしましょう。
bit.ly/fb-mq
- ・ 西中央アフリカ支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。
bit.ly/wad-2023
- ・ このお話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。「大都市における、神を知らない、もしくは神を受け入れていない人々や他宗教の人々へのアドベンチストの働きかけを強化し、多様化させる」（「伝道の目標」No.2）
「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）
詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご参照ください。

豆知識

- ・ ガーナの伝統的な布といえば、絹や綿の布を手織りした色鮮やかなケンテ（かごを意味する「ケントン」が語源）です。かつてはアシャンティ族やエウエ族の王族、ダグボン族の女王や王女が身に着けていました。現在では、特別な日に着るのが一般的です。
- ・ ガーナのアシャンティ州クマシにあるケジェティア市場は、西アフリカ最大の青空市場です。スパイスからアシャンティのサンダル、プラスチック・ビーズ、金銀製品まで、1 万を超える店舗や露店が軒を連ねています。

6. 草刈り鎌襲撃事件

ガーナ



ナンシー

ここは、西アフリカの国ガーナ。13歳のナンシーは鋭い草刈り鎌を手に学校へと向かっていました。先生が子どもたちに学校周辺の草刈りを手伝ってほしいと頼んだので、ナンシーは父親から草刈り鎌を借りたのでした。草刈りの準備はバッチリでした。

その時、悲劇が起きました。

学校へ向かう途中、ナンシーは16歳の親戚アクバに出会い、2人の女の子たちの間で喧嘩が始まりました。アクバはナンシーがうそのうさを広めたと非難し、ナンシーはそんなことはしていないと怒りながら抗議しました。

その口論は激化していき、アクバはナンシーの草刈り鎌をひったくるとそれを脅すように振り回しました。

ちょうどその時、ナンシーの父親がそこに現れました。誰かが少女たちのけんかを見て、お父さんに急いで知らせたのです。アクバがナンシーに向かって突進し彼女に大鎌を振りかざした瞬間、お父さんは2人の間に割って入りました。鎌はお父さんの鼻

の頭を切り落としてしまいました。

ナンシーの目から涙があふれました。彼女は打ちのめされたように感じました。お父さんは病院に緊急搬送されました。ナンシーは病院に一緒に行こうとしましたが誰かが彼女を引きとめました。ナンシーはアクバに報復しようとしたのですが、誰かがアクバを連れ去りました。

残念なことに、医師はお父さんの鼻の頭を元通りにくっつけることは出来ませんでした。

医師はお父さんの傷を治療し、エステルという看護師に彼の世話を任せました。お父さんは回復のためにしばらく病院で過ごしました。

彼はエステルに感銘を受けて、彼女をナンシーに紹介しました。

「彼女はよい看護師だよ。私はおまえが看護師になってくれたらいいと常々思っていたのだよ」とお父さんはナンシーに言いました。

ナンシーはエステルが父親を看護する様子を見ました。そして彼女も感銘を受けました。彼女は看護師になろうと決心しました。

それから数年後、ナンシーは高等学校を卒業しました。彼女が看護学校を探しているとセブンスデー・アドベンチスト看護師・助産師養成大学を見つけました。

彼女は最初、アドベンチストだけが、そこで学ぶことを許されているのだと思っていました。彼女はアドベンチストではありませんでした。

しかし、大学は彼女の願書を受け入れました。一度勉強を始めてみると、彼女はたくさんの学生がアドベンチストではないことを知りました。クリスチャンでない人もいました。

ナンシーは自分のことをクリスチャンだといつも思っていました。しかし、大学で祈祷週に参加した時、彼女の考えは変わりました。

1人の牧師がどのようにクリスチャン生活を送る

かということを経験から教えてくれました。そして彼女は、これまで自分がクリスチャンの生き方をしなかつたことに気づいたのです。

彼女は本物のクリスチャンになりたいと思いました。祈禱週の最終日、彼女は自分の人生をキリストにささげ、バプテスマを受けようと決心しました。

現在、ナンシーは 22 歳で新しい人生を送っています。彼女がイエス様にすべてをおささげた時から、彼女の人生は完全に変わりました。

以前の彼女は週末に教会でしか聖書を読みませんでしたが、今は個人的ディボーションの時間を持ち、毎日部屋で聖書を読みます。彼女はまた祈ります。彼女は卒業して看護師として人々に仕えることをとても楽しみにしています。彼女はさらに勉強を続けて医師になるかもしれません。

「私がバプテスマを受けたいと言ったら、父は喜んでくれました。父は私の過去の生活を知っています。彼は私が大学を通して変わり、新しい生き方ができるようになったことを聞いて嬉しかったのです」とナンシーは語っています。

13 回献金は、ナンシーが学んでいるセブンスデー・アドベンチスト看護師・助産師養成大学にいくつかの新しい教室と寮を建てるために用いられます。2015 年に 22 名の学生数で始まったこの大学で、現在は 770 名の学生たちが学んでいます。需要が高く、学校はこれ以上学生を受け入れることができない状況です。アドベンチストでない学生が全体の 7 割を占めるこの学校は、真に伝道の働きを担っています。ナンシーのような多くの学生が毎年教会に加わっています。12 月 30 日におささげくださる皆様からの 13 回献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・『聖書研究ガイド』の今週の学び（10 課）は他の人々により深い霊的会話をするきっかけとなる仲立ちや接点になるものを探そうと提案しています。どのような仲立ちや接点がナンシーを神とのより深い関係に導いたのでしょうか？

解答例：看護。ナンシーは看護師になるという目標を追求中で、セブンスデー・アドベンチスト看護師・助産師養成大学と出会い、そのことが彼女を神とのより深い関係へと導いた。

- ・アクバの名前は偽名です。
- ・Facebook の写真をダウンロードしましょう。
bit.ly/fb-mq
- ・西中央アフリカ支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。

bit.ly/wad-2023

- ・このお話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）「青年が神様を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご参照ください。

豆知識

- ・コフィ・アナン（1938～2018）は最もよく知られたガーナ人の 1 人です。1997 年から 2006 年まで国連事務総長を務め、2001 年に彼と国連はノーベル平和賞を受賞しました。
- ・1957 年 3 月 6 日、当時ゴールドコーストと呼ばれていたガーナは、イギリスからの独立を宣言しました。